

進路指導室へようこそ 3

前橋女子高校進路指導部

令和7年度 MJ 進路通信 第31号

令和7年10月16日(木)発行

■進路について、じっくり考えてみよう

10月も中旬を迎え、気候的にも大変過ごしやすい時期になりました。勉強はもちろんですが部活動や課外活動など、じっくり腰を据えて取り組める時期です。1年生は来月に大学・企業研究所訪問が、2年生は明日スペシャリストガイダンスが開催され、大学や職業について考える機会が用意されています。皆さんにはぜひこの時間を有効に活用して、進路について考える機会としてほしいと思います。本号では、各学年の皆さんが、進路について考えるヒントになるような話題を紹介したいと思います。

■進路指導室の情報書籍、活用してますか？

進路指導室は、進路研究に関するあらゆる情報が日々集まる場所です。大学入試過去問集(通称「赤本」)も続々と入荷し、最新版が大分出そろいました。

過去問のほかにもさまざまな業者が作成した資料集も新年度版が届くようになり、「面接アンケート集」「小論文過去問資料」などは複数の業者のものが書棚

にあり、網羅性を高めています。大学の募集要項も最新版がレターボックスに入っていますし今年度の指定校のリストもあります。これから受験を迎える3年生だけでなく、最新の情報や先輩方の資料などを見たい場合自由に閲覧(コピー)することができます。さまざまな情報収集の一助として、進路指導室の閲覧コーナー、有効に活用してみませんか。



■「志望理由書」は、大学への「ラブレター」

大学入試の出願の際、特に学校推薦型選抜や総合型選抜においては「志望理由書」の提出が求められる場合があります。「志望理由書」とは、文字通り「その学校(学部・学科)に入学したい理由」について記した書類のことであり、最近是一般入試でも提出を求められるケースも増えています。入学したい理由に加え、「将来の希望」や「この学校で特に取り組みたいこと」などを記入することもあり、もちろんその書類自体が評価の対象となるほか、面接試験等においてはその志望理由書を踏まえて質問されることもあります。

志望理由書を書くにあたっては、その大学を目指すきっかけのみならず、その目標のために今までどんなことを頑張ってきたのかもアピールする必要があります。一朝一夕に書けるものでもないので、1・2年生の皆さんも一度自分の志望校について深く考え、一度志望理由書を書いてみてはどうでしょうか(志望校へのラブレターです)。改めて自分の気持ちを整理することで志望校への思いが大きくなるかもしれません。

《優秀答案例》

私は■■大学商学部で対外マーケティングを中心としたマーケティング戦略について学ぶことを志望している。その上で、総合商社に就職し、外国との貿易取り引きを円滑に行い、国内の経済成長をうながすことのできる人になりたい。

私は高校一年生の夏から一年間、アメリカ合衆国に留学した。そこで地元の高校に通い、生活することで私はアメリカのさまざまな文化や産業を目にし、経験した。また、高校での授業では経済とマーケティングを選択していたので、授業内で日本とアメリカとの販売戦略のちがいや顧客のニーズのちがいを学んだ。また、アメリカ人の同級生とのディスカッションを通してマーケティングに対する考え方のちがいを知り、興味をもった。また、日本へのアメリカ産業の進出・展開が遅いこと、そして日本文化への誤解が多いと感じた。アメリカには日本の商品・文化が流入してきてはいるものの、それらの多くが別物として扱われ、アメリカに溶け込んでいなかった。これらの経験から、私は日本の経済成長のため、そして他国と日本との国交を商業の観点から強めたい。そのために総合商社に就めて、それぞれの国の文化産業をよりスムーズに正しく伝え、それを各々の国に合わせた工夫を施し、輸入・輸出を進めたい。

私の夢を実現するためには、国内のマーケティング戦略を学ぶことと同時に対外マーケティングについても学ぶことが必要不可欠である。それぞれの国の文化・産業やそこに住む人に合わせてどのような戦略を立てるかを学ぶことでより貿易をスムーズに行うことができると考えるからだ。高校二年の夏に貴校のオープンキャンパスに参加し、学生に対する教授の人数が多く、指導が手厚く多種の知識や専門分野をもった教授が多いことに魅力を感じた。また、私は一度留学をしたが、今度は外国で専門分野について学んだり、研究を行うためにもう一度留学したいと考えている。そのため、留学制度の充実している貴校は自分にとって最適な大学である。

文化が異なれば、そこに住む人も異なり、人が異なれば、産業も異なると私は考える。貴校で学んだ知識を生かして外国との貿易取り引きにおいて、金銭的利益だけでなく、他の分野においても輸入国側、輸出国側の利益やメリットが最大になるような貿易取り引きを行うことのできる工夫をしたい。

多種の細部までの知識をもつ多くの教授がいて、さらに留学制度が整っている貴校で学ぶことで私の理想とする形で日本国内の経済成長に役立てると考え、私は■■大学商学部に行くことを志望する。

■進路を決めるにあたってのメッセージ

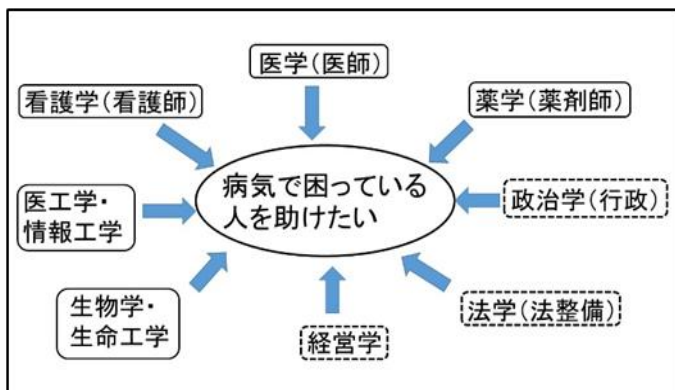
裏面のメッセージは、昨年度の1年生(現2年生)の文理選択時に、「進路選択にあたり考えてほしいこと」として学年便りに掲載したメッセージです。文理選択のみならず、職業や進学先を考えるにあたっては共通して大事にしてほしいことでもあります。あらためて掲載しますので、学年を問わず自分の進路決定の際のひとつの「みちしるべ」にしてほしいと思います。

■コース選択の最終決定にあたって

1年生の皆さんへ。文理選択の最終決定の時期になりました。入学して1年も経っていないのに、もう将来の進路を決める大きな決断を迫られるなんて、と感じる人は多いと思います。しかも、現在の教育課程では一度文理を選択してしまうと、途中でそのコースを変更して授業を受けることが事実上不可能な状況にあります。だからこそ、この最終決定にあたっては、よく考えて後悔のない選択をしてほしいと考えます。そのために、進路指導の観点からお伝えしたいことをまとめてみたいと思います。もう決まっている、という人も改めて自分の進路について考える機会にしてください。

目指す夢へのアプローチは、1つではない

「困っている人の役に立ちたいから医者になりたい」。本校の生徒は、「誰かの役に立ちたい」という気持ちをもつ人がとても多いと思います。素敵なことです。ですが、「人の役に立たない」仕事って、あるんでしょうか？（人の役に立つから「仕事」が成立するんですよね）。だからこそ、皆さんには、「どのような形で世の中に貢献するか」まで考えてほしいと思っています。例えば、「病気で困っている人を助けたい」人が真っ先に思い浮かぶ仕事は「医師」かもしれませんが、同じ夢を実現するためのアプロ



ーチ方法は実際にはいろいろあります。患者の負担を軽減する医療機器を開発したり、新薬やウイルスの研究をしたり、法整備を行ってさまざまな医療問題を解決したり、など様々。そこに文理の壁はありません。むしろ、複数のプロフェッショナルが力を合わせないと解決できないほど現代の諸問題は複雑化しているともいえます。夢の実現のためには現在考える道筋のほかにどんな選択肢があるのか、これをしっかり考えてほしい。その結果「やっぱりこの進路がいい」とうことであれば目指せばいい。ですが、様々な候補をきちんと比較した上での決断にしてほしいと思います。

そして、もう1つ。皆さんは、世の中にある仕事のほんの一部しかまだ知らない、ということ。

- ・アクチュアリー
- ・言語聴覚士
- ・インダストリアルデザイナー

例えばこんな仕事、皆さんは知っていますか？今皆さんはほんの一部の選択肢から仕事を選ぼうとしていると言えます。皆さんが知らない仕事のなかに、もっと向いている仕事があるかもしれないのです。「初志貫徹弁護士を目指します」も立派ですが、それでも、自分の力を最大限発揮できる仕事を探し続ける姿勢も大切です。そういう意味では、第一志望というのは、「それがベストなのか」を常に検討し続けるものである、とも言えます。

適性って？

「医師の適性」「教師の適性」「外交官の適性」。「適性」って、よく聞きますが、そもそも高校生の皆さんにその「適性」があるかなんて、果たして誰が判断できるのでしょうか。適性があるかどうか分からないけど、仕事を続けていくうちにその適性が身についていく、ってことだってあるはず。だったら、今の皆さんが身につけるべき「適性」とは？それは、「目標実現のためにやらなければならない課題から逃げないこと」です。文系なのに英語が苦手（理系なのに数学が苦手）でしかも克服のために何か努力をしている訳でもない（逃げたまま）。だとすればそれは「適性がない」と判断されても仕方ないでしょう。選択をする、ということはもう言い訳をしない、逃げない、と覚悟を決めるということでもあるのです。

セカンドオピニオンが聞ける人は、失敗しない

文理選択にあたり、苦手科目の存在が悩みの種になることもあります。そんな人は担任や教科の先生に相談してほしい。数年前、数学の苦手を心配されつつ頑なに理系を選んだ生徒が3年次に結局文系の大学を選択することとなり、その時に言い放った言葉が「あの時先生がもっと強く文系を勧めてくれたら文系にしていたかもしれない（ちなみに担任は心配して何度も面接でアドバイスをしていましたが当時その生徒には聞く耳をもってもらえなかったそうです）」。大きな選択をするにあたり、「私もう決めたから」と「聞く耳を持たない」生徒が実は危険なんです。見通しのないまま見切り発車してしまう可能性があるからです。最終判断は自分でするにせよ、セカンドオピニオン、サードオピニオンを受け入れる度量のある生徒は、紆余曲折あっても最終的には納得のいく選択ができることが多いです。進路選択に少しでも不安のある生徒は、担任や教科担当の先生によく話を聞いてもらってください。